

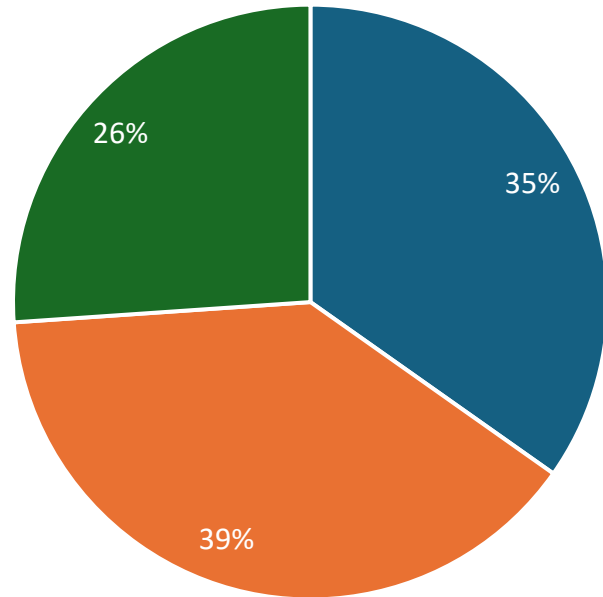
- ・建設業では、近年のデジタル化の進展により、現場および本社の働き方が大きく変化している。**従来の手作業や対面中心の業務運営から、デジタル技術を活用した新たな業務プロセスへの転換が加速している**中で、RPA(ロボット・ティック・プロセス・オートメーション)は、建設業界におけるデジタル化の柱の一つとして注目を集めている。
  - ・これまで建設業界では、現場ごとに異なる煩雑な事務作業や膨大な書類処理、定型的なデータ入力などが多く、業務効率化の妨げとなっていた。しかし、コロナ禍による出社制限や人員配置の見直しを契機として、「**自動化できる業務は極力自動化する**」という考え方が業界全体に浸透しつつある。
- これにより、RPAの導入および活用が急速に進み、現在では多くの企業が経理、総務、受発注管理、勤怠集計など、さまざまなバックオフィス業務でRPAを活用している。
- ・このような背景を踏まえ、本アンケートは、建設業におけるデジタル化の一環として注目される**RPAの活用状況**を把握することを目的として実施した。

## 目的

- ・建設業界におけるデジタル化の一環としてのRPA活用状況を把握
- ・RPAの導入背景や目的、期待される効果を明らかにする
- ・RPAが社内でのどのように利用・運用されているかの実態を調査
- ・作業所におけるRPAの浸透度や操作可能な人材の有無を確認
- ・RPAの使用用途や導入時の課題を整理し、業務への適用可能性を探る
- ・RPAの開発体制(内製化・外部委託)の状況を把握する
- ・RPA運用中に発生している課題や改善点の抽出
- ・今後のRPA活用に向けて、現場のニーズや期待される機能を明らかにする
- ・建設業界全体の業務効率化、働き方改革の方向性を見出すための基礎資料とする

## Q3. RPAを導入済みですか？

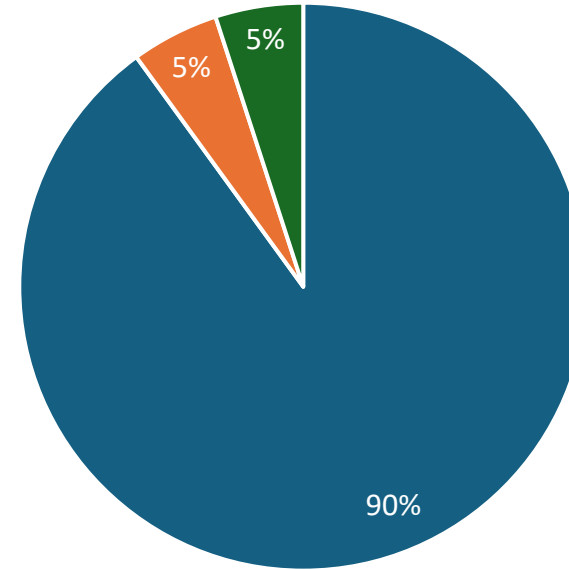
※単一回答



■ 個別に導入済み ■ 全社で導入済み ■ 全く導入していない

## Q4. RPAの導入目的

※複数回答

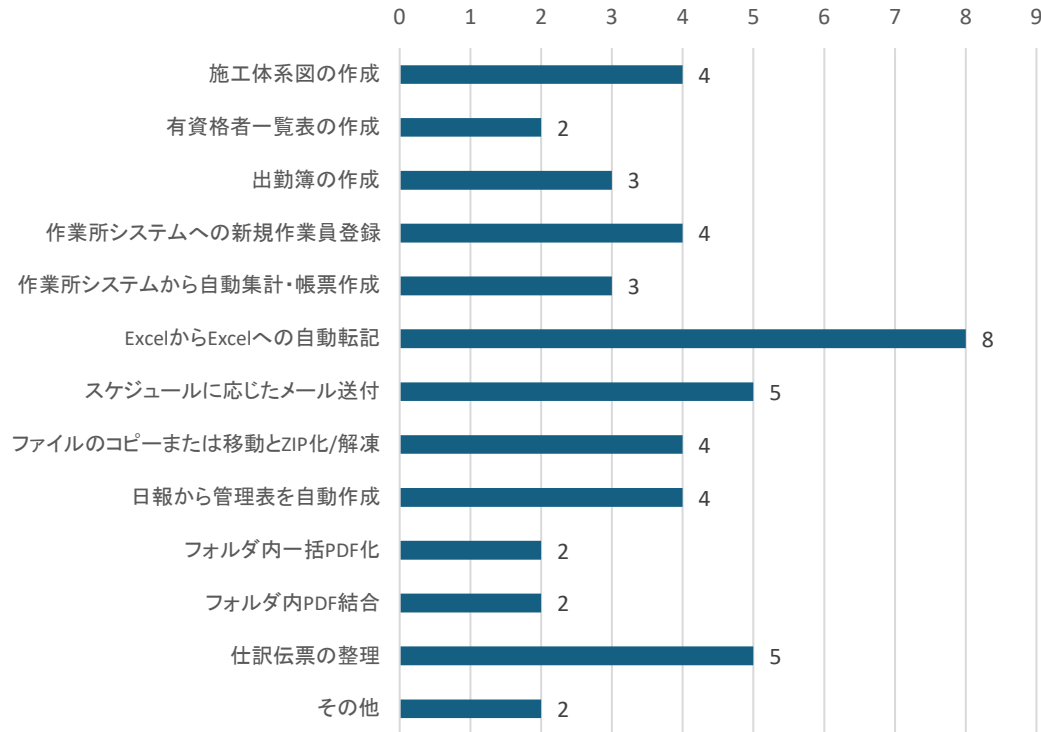


■ 業務効率化 ■ 新技術導入 ■ 人手不足への対応

**RPAの導入が全社と個別で2/3を占め、その導入目的として90%が業務効率化を目的であった。業務効率化を期待をして各社が導入したことが窺える。**

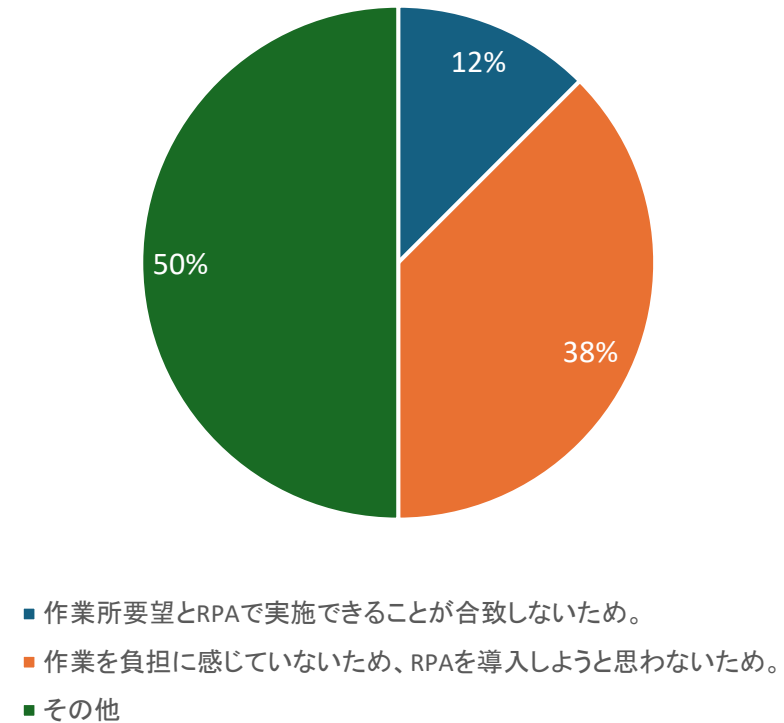
## Q5. RPAの使用用途

※複数回答



## Q6. 導入における課題、導入しない理由

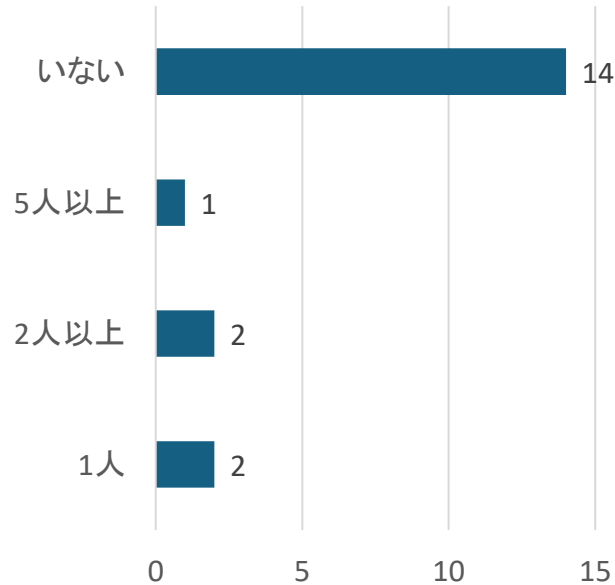
※複数回答



用途は多岐にわたる。導入しない主な理由は「**作業を負担に感じていない**」「**実施できることがニーズと合致しない**」などが挙げられた。

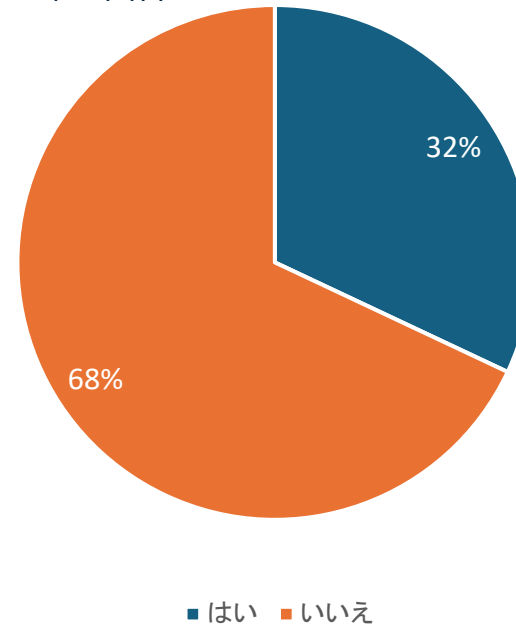
## Q7. 作業所でRPAを操作できる人数

※単一回答



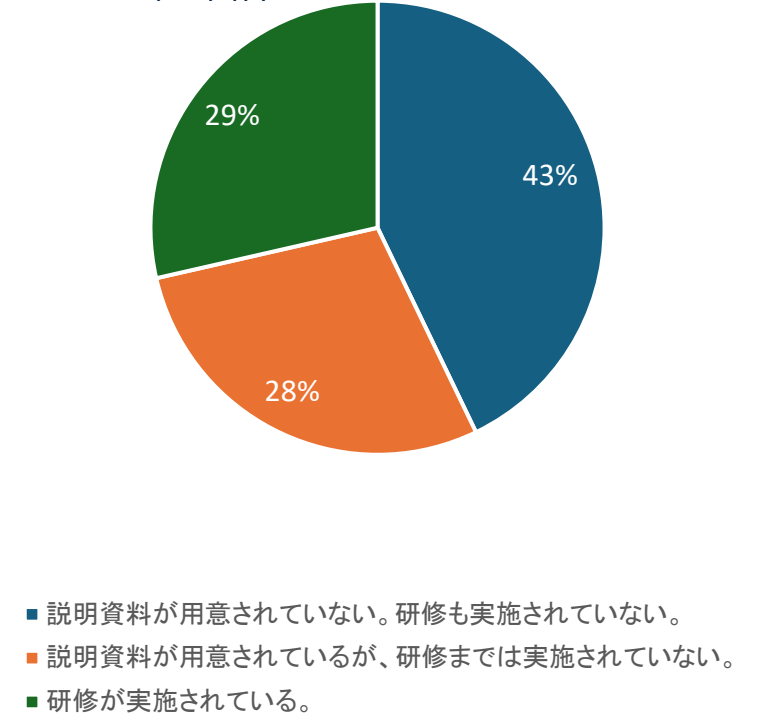
## Q8. 作業所の省力化に寄与するRPAは稼働しているか

※単一回答



## Q9. RPA利用に関する説明資料の有無 または研修は実施されているか

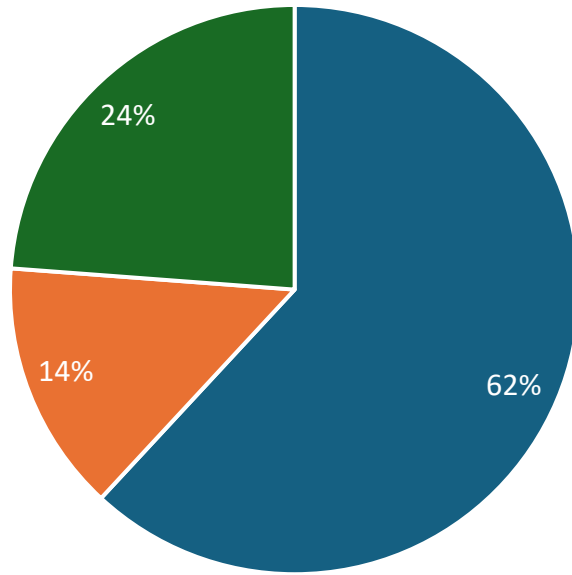
※単一回答



作業所において**RPAを直接操作できる人材がほとんどいない**ことが分かる。一方で、RPAが裏で動いている割合は約1/3にとどまり、**説明資料や研修の実施があると回答した企業は58%**に達している。RPAの社内利用は一部の本社部門や特定のメンバーによって推進されているものの、**現場(作業所)レベルでは十分に浸透していないことが推測**される。

### Q10. RPAは自社開発か、もしくは外注か？

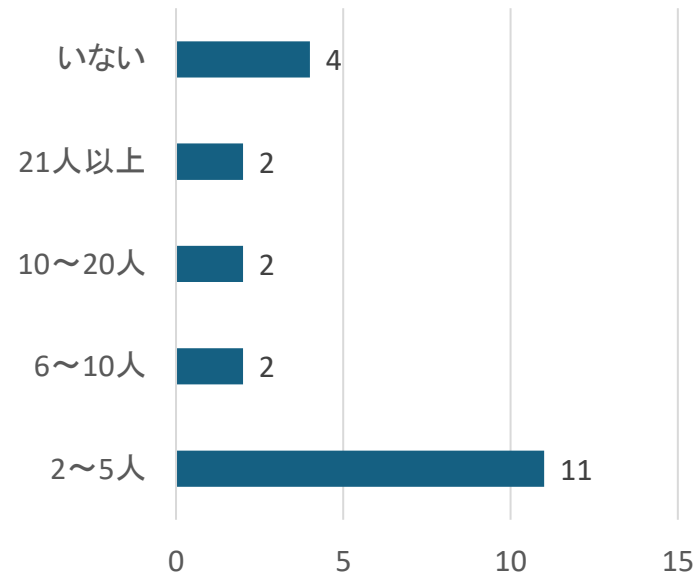
※単一回答



■ 自社開発 ■ 外注 ■ 自社開発・外注どちらも実施している。

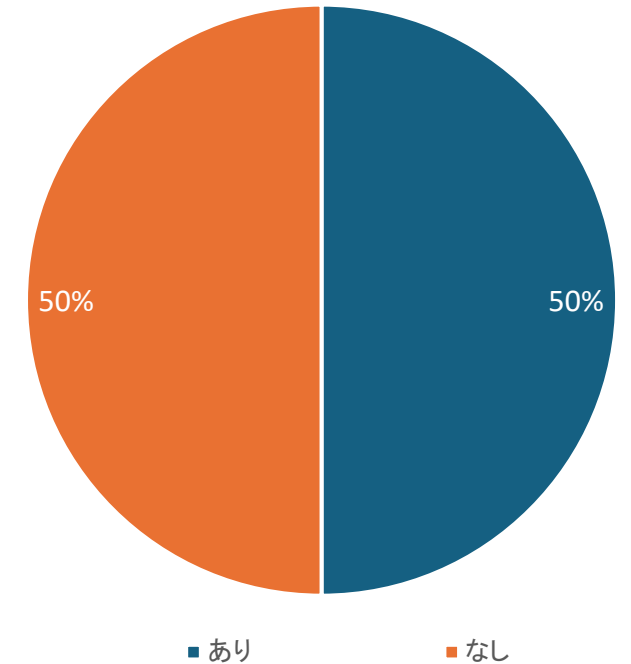
### Q11. 社内のRPA開発できる人数

※単一回答



### Q12. RPA主幹部署による導入支援の有無

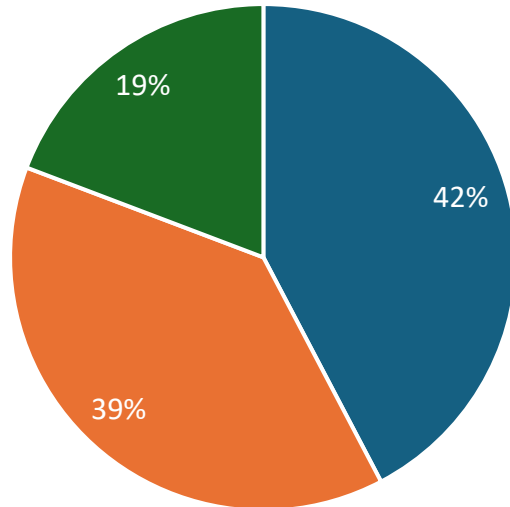
※単一回答



半数以上の企業で主幹部署が主導してRPA開発の導入支援や外注での開発支援が進められている。**開発・操作できる人は限定的**であり、RPAをExcelやWordのように誰もが使えるツールとして利用している企業はほとんどない。**社内もしくは外注で開発したものを利用することが一般的な利用方法**だと推測される。

## Q13.RPAを運用する中で、課題と感じる点

※複数回答

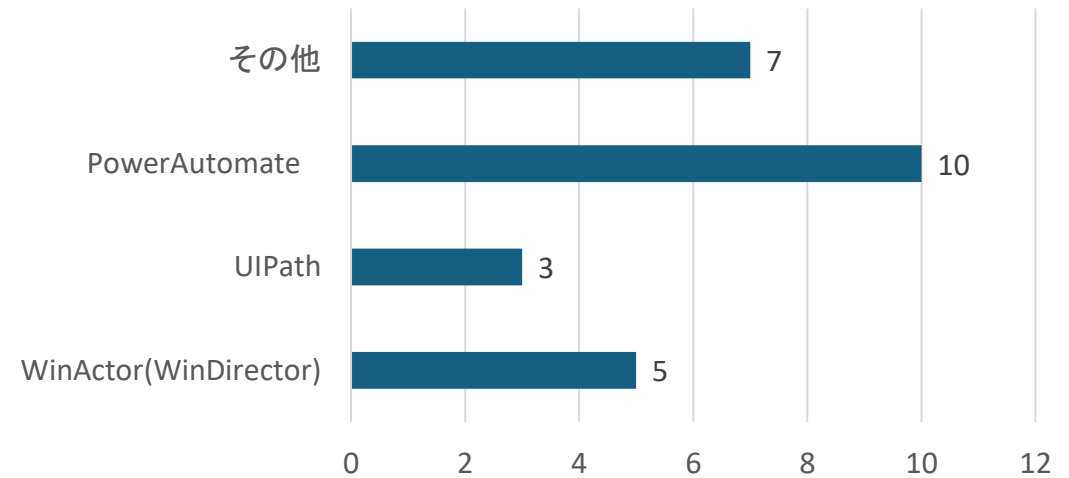


- 運用中のおもりが大変(トラブル対応)
- 運用の属人化(作業所で1人の社員しか把握しておらず、人事異動で運用できなくなってしまう)
- その他

RPAを開発・導入したのは良いが、**トラブル対応や属人化に課題を感じている企業が多い**ことがわかる。トラブルや業務フローの変更によりRPAが継続利用できず対応に苦慮している場合も多いと考えられる。これからRPAを導入される場合は、**運用中のトラブルや改修についても配慮した体制づくりも必要**だと考える。

## Q14.使用しているRPAの種類

※複数回答



その他の回答 答えられない/キーエンス/Bizrobo/SmartRead

使用している種類は、**PowerAutomateが最多**。Microsoftの製品なので身近で使用しやすいと推測する。他は自社での開発やWinActorの順に使用していることが分かった。

- ・RPAの導入は「**全社導入**」「**個別導入**」を合わせて**約2/3の企業が実施**、**導入目的の約90%が「業務効率化」**であることが判明。
- ・活用用途は多岐にわたり、**経理・総務・受発注管理・勤怠集計**など、主にバックオフィス業務での活用が目立つ。
- ・導入しない理由としては、「**業務負担を感じていない**」「**RPAで実施できることが自社のニーズと合致しない**」といった声が多く挙げられた。
- ・作業所ではRPAを直接操作できる人材がほとんどおらず、**RPAが裏で稼働していることを認識している割合は約1/3にとどまる**。半数以上の企業では主幹部が主導してRPAの導入支援を行っており、外部委託による開発も進められている。
- ・RPAをExcelやWordのように誰もが使えるツールとして活用している企業は少なく、開発・操作できる人材は限定的。**トラブル対応や属人化、業務フロー変更への対応に課題を感じている企業**が多く、継続的な運用に苦慮しているケースも見受けられる。
- ・アンケート結果から、RPAは建設業界において**業務効率化を目的に積極的に導入されている一方で、現場(作業所)への浸透が限定的**であることが浮き彫りとなった。
- ・RPAは導入すれば終わりではなく、継続的な運用と改善が求められるツールであるため、**体制づくりや運用支援が不可欠**ということが**明確化**された。